

25周年記念講演会/観察会

「花と昆虫がつくる多様な自然」

坂本文雄（佐倉市）

日 時：2009年4月25日（日）10:00～15:00 天気：雨

実施場所：21世紀の森と広場（松戸市）

参加者：指導員42名、担当者指導員：盛一昭代、渋谷孝子

講 師：田中 肇 氏（フラワーエコロジスト）

花は色も形も香りも多種多様で人々を魅了し、また分類の手がかりとしても重要なポイントになっている。しかし、植物が花を見せる真の相手は人間でなく、花粉の媒介をしてくれる昆虫だ。彼らを呼び寄せ、効率良く受粉して多様な遺伝子を持った子孫を次世代に残すこと。

花を咲かせる目的は、この一点に絞られている。

その為、昆虫の餌となる蜜や花粉を用意し、在り処を示す道標や吸蜜の足場の提供など、至れり尽くせりのように見せつつ、確実に花粉を運ばせるカラクリがどこかに忍ばせてある。

植物にとって大切な資源である蜜を最大限に活用し、目的外の昆虫に横取りされない仕組みもある。中には蜜があるように装って昆虫を騙して誘い込み、ただ働きさせる花さえもある。

花の色も形も大きさも全てに隠された秘密と工夫がある。それを一つ一つ解き明し、これまでに無い花の見方を示して下さったのが、今回の講演会だった。

講師の田中肇氏は花と昆虫の関わりを研究する、フラワーエコロジストの先駆者として知られた方ですから、その著書を読まれた方も多いと思います。そのご本人から直接お話しが聞けるのですから、期待が高まったのも無理ありません。

午前中の講演では、図や写真、模型を使っての解説に、全員が真剣に聞き入り、満員の会場は熱気に溢っていました。それにしも、蛾がマツヨイグサの花粉を付けて飛び去る瞬間の写真などは、どんなカメラを使い、どうすれば写せるのかと思った方も多いでしょう。

午後は野外で実際に咲いている花を使っての実習のはずだったのですが、雨天のために、予定変更となり、前もって準備されていたツツジ、フジ、パンジーなどの花を室内で解剖して、その仕組みを観察しました。細かい作業だったので、風の無い室内で良かったと思います。講演の中で田中先生が繰り返し強調された言葉「本に書いてある事を鵜呑みにして信用するな。自分で見て、考えて真実を見出せ」はご自身が単独で新分野の研究へ乗り出す指針となつた言葉ではないでしょうか。印象的で重みのある言葉だと思いました。

期待通りの有意義な講演を聞いて、今までの観察会を振り返って見れば、名前調べや識別ポイントの確認に終始していたのではなかったと反省させられました。これでは生き物達の不思議でドラマチックな世界の扉を開ける事無く、入り口でまごついていたのも同然です。

この講演を機会に自分自身もレベルアップしたいものです。

25周年記念講演として素晴らしい企画でした。田中先生の今後益々のご活躍を祈ると同時に、計画から実現までご苦労をされた関係者の方々にお礼を申し上げます。



ツツジの花びら、蜜標の元にだけ蜜があるかの観察